

事例研究～中国ビジネス法務

北京市大地律師事務所 / 日本部
パートナー弁護士 法学博士 熊琳

第266回 中国政府による国有資産取引操作規則の刷新

2025年2月18日、中国国務院国有資産監督管理委員会(以下「SASAC」という。)は、2009年6月に公布された『企業国有財産権取引操作規則』に替わる『企業国有資産取引操作規則』(以下「操作規則」という。)を発表した。日系企業が中国国有企業との事業提携を展開するケースも比較的多く見られており、中国での事業展開において国有資産取引は重要な意義を持つことから、今回は操作規則の中から特に日系企業が注目すべき内容について解説する。

◇日系企業が独資化に伴って直面した複雑な国有資産譲渡プロセス

日本本社A社と中国国有企業B社は、2000年代初期に出資比率70%対30%で現地合弁会社C社を設立した。その後20年に及ぶ合弁会社経営を経て、A社は持分買取によるC社の独資化を目指し、B社との交渉を進めた。B社はA社からの提案を受け、独資化の方向性自体に異論はないが、持分譲渡手続きには慎重な対応が必要であることを示唆した。まずB社が持分を譲渡するには、関連法規やSASACからの要求に基づき、「監査→資産評価→承認→取引所での公開取引」という流れで進める必要があり、その中でも資産評価は持分譲渡価格を確定するベースとなる。また取引所でのプロセス上、事前に唯一の譲受人を指定はできず、公開取引方式の採用が必須であることから、A社がB社の保有するC社持分をすべて譲受できるという保証はない。

そこでA社は、C社持分の譲受をより確実なものとするため、弁護士のサポートを受けながら財産権取引所及びB社と度重なる交渉を行った。その結果、関連法規及びSASACの許可の範囲内で譲受人の資格条件と取引条件を最も有利に設定することにより、A社は持分譲受の目的を実現できた。

◇操作規則の重点内容

この操作規則の中で規制されている取引類型には、持分譲渡、増資、資産譲渡など様々な類型が含まれるが、条項が長いこと、また、増資や資産譲渡の取引規則は持分譲渡との類似点が多いことから、今回は持分譲渡取引を例に解説する。

1、操作規則では、国有持分取引において等価有償原則、及び公開・公平・公正の原則を遵守すること、等価有償原則は「国有資産の価値保持・価値増加」原則と実質的に同一であること、また公開・公平・公正の原則により公開取引方式の採用を決定することを改めて明確に規定した。

2、国有持分取引活動がSASACの監督管理を受けることを明確にした。

3、国有持分譲渡の主な流れは以下のとおりである。

(1) 譲渡人が社内で検討及び意思決定を行うと共に、譲渡対象、人員配置、債権債務処理、価格決定根拠等の取引条件内容を含む譲渡案を作成する。

(2) 譲渡人が仲介機構に監査及び資産評価を委託し、且つ資産評価の審査承認若しくは届出手続を完了する。

(3) 譲渡人が審査認可権を有する上級機関に取引申請を提出し、認可を得る。

- (4) 譲渡人が財産権取引所と契約を締結し、譲受人の主体資格条件及び取引条件等の事項を確定する。
- (5) 取引所が公開取引手続きを開始し、取引項目内容に関する情報開示公告を公開する。公告期間は20営業日以上とする。
- (6) 譲受意向者が取引所に取引参加申請を提出する。
- (7) 取引所と譲渡人が情報開示公告期間満了後5営業日以内に譲受意向者の状況を確認する。
- (8) 確認を経て合格した譲受意向者が、取引所に取引保証金を納付する。
- (9) 公告期間満了後に合格した譲受意向者の状況に基づき、以下のとおり分類別に処理する。
 - 譲受意向者が2者またはそれ以上である場合は入札を行う。
 - 譲受意向者が1者である場合は、最低取引価格或は譲受意向者の提示価格のうち高い方で成約する。
 - 譲受意向者がいない場合は、審査・認可を経て最低取引価格を調整後、再度情報開示公告を公開するか、取引を終了する。
- (10) 財産権取引契約に署名し、買収側が支払いを行い、取引所が取引証憑を発行する。
- (11) 持分のクローズング、変更登記等の後続手続きを行う。

◇日系企業へのアドバイス

当該操作規則を含む国有資産管理制度を理解する上で求められているのは、中国国有企業との取引展開において必須となる知識を蓄えることであり、こうした知識がない場合、中国側と効果的なコミュニケーションをとるのが困難となる。取引成功率の向上とリスク回避のためにも、関連知識を備えた経験豊かな専門家の協力を得て対応にあたることをお勧めする。

《上海・華東》

江南造船、世界最大級アンモニア船着工＝上海市

中国ニュースサイトの澎湃新聞などによると、国有造船最大手、中国船舶集団傘下の江南造船（上海市）はこのほど、積載能力9万3000立方メートル型の大型液化アンモニア輸送船（VLAC）の建造に着手した。全長230メートル、幅36.6メートルで、現時点で世界最大級のVLAC。

江南造船は2023年、シンガポール海運会社イースタン・パシフィック・ SHIPPING（EPS）から9万3000立方メートル型VLAC6隻を初めて受注。今回着工したのは1隻目。

江南造船はまた、EPSから同15万立方メートル型の超大型液化エタン輸送船（VLEC）6隻を受注している。（上海時事）

ノルウェー塗料大手、張家港工場に2億ドル＝江蘇省

中国ニュースサイトの界面新聞などによると、ノルウェー塗料大手ジョータンは、江蘇省張家港市に新工場を建設し、中国で事業を拡大する。投資額は2億ドル（約300億円）の見込み。高性能塗料を年20万トン生産する見込み。

ジョータンは2004年、張家港に受け皿会社「佐敦塗料（張家港）」を設立し、船舶や工業、建築用塗料を中心に手掛ける。張家港の他、山東省青島市や広東省広州市にも生産拠点を置いているが、張家港工場は同社にとって中国最大の生産拠点で、これまでの投資額は累計で9000万ドルに達している。（上海時事）